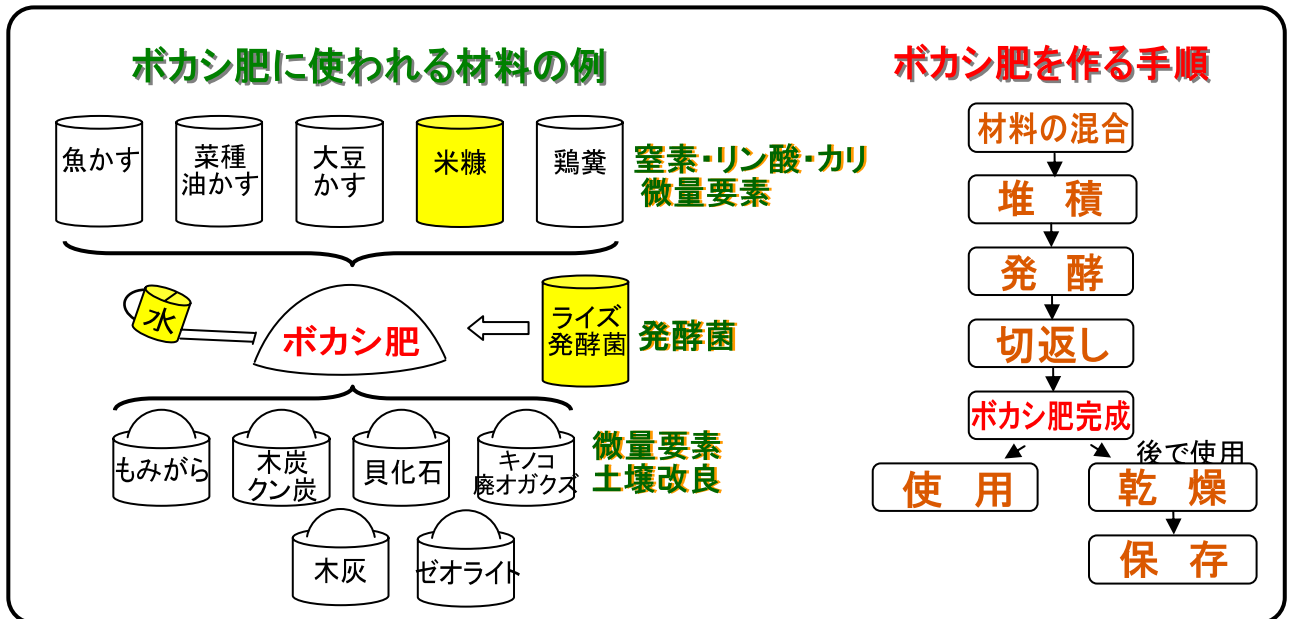


ボカシ肥の作り方

(有)花巻酵素



ボカシ肥の例

- ・材料の種類と量は一例です。
- ・材料の成分等で不明の点は当社へお問合せ下さい。
- ・この例の量は化学肥料に換算して50～80kgです。

| 材 料 | Kg | 窒素 N | | リン酸 P | | カリ K | |
|---------|-----|------|------|-------|------|------|------|
| | | % | Kg | % | Kg | % | kg |
| 大豆かす | 40 | 7.0 | 2.8 | 1.0 | 0.4 | 1.0 | 0.4 |
| 菜種油かす | 40 | 5.3 | 2.12 | 2.0 | 0.8 | 1.0 | 0.4 |
| 魚かす | 20 | 7.0 | 1.4 | 5.0 | 1 | 0.4 | 0.08 |
| 米糠 | 40 | 2.3 | 0.92 | 5.0 | 2 | 2.0 | 0.8 |
| ライズ 10% | 15 | 0.5 | 0.08 | 0.5 | 0.08 | 0.4 | 0.06 |
| 合 計 | 155 | | 7.32 | | 4.28 | | 1.74 |

- ① 材料の混合** ライズは材料に10%を混合。水の量は材料の合計の30～50%を目安にする。

水を掛けながら全部の材料をよく混ぜる。水の量は50～80リットルで、混ぜたものを手で握ったとき軽く団子になり、指で突つくとすぐこわれるくらいにします。握ったものがベタベタするようでは水分過剰です。水分が多すぎると発酵しないで腐敗しやすくなり良いボカシ肥はできません。
- ② 堆積 発酵** 堆積は土に直接かベニアやコンパネの上がよい。

混合後は雨をさけてハウスや小屋の中へ小山状に堆積する。保温のためにその上をワラや麻などで出来た通気性のあるシートでおおう。ポリシートや通気性のないシートは使えません。堆積して夏は2～4日、冬は3～10日で発酵熱が出てきます。最高で60～70℃まで温度が上がります。冬など外気温が低くて発酵熱が出にくいときは灯油用のポリタンクに70℃前後のお湯を入れて湯タンポとして堆積山の中に埋め込みます。
- ③ 切返し ボカシ肥完成** 最高温度は切り返しの度に低くなり、しだいに冷める。

発酵熱が出てから60～70℃の最高温度(50～60℃の場合もあり)になったら内部と外部の発酵を均一にするために再混合して転地返し(「切り返し」と言います)をして再び小山状に体積します。切り返し後温度はいったん下がりますが1～3日で再び上がりますのでまた切り返します。このようにして最低3回切り返し、堆積から約2週間で材料全体の発酵が完了してボカシ肥の完成となります。
- ④ すぐ 使用** 又は **乾燥 保存** 保存中の腐敗を防ぐため乾燥は完全に完成したら堆積山をくずし薄く広げて温度が完全に下がれば乾燥していなくても使用できます。すぐに使わないで保存する場合は、薄く広げたままですらさらになるまで完全に乾燥させてから袋などに入れて保存します。翌年も使用できます。